

視力の低い人への視認性と景観との調和の両立をめざし、 車椅子やベビーカー利用者のバリアになりにくい、 視覚障害者用点字誘導ブロックの開発について

日本興業株式会社

日本興業株式会社（社長：多田綾夫）は、このほど、東京大学分子細胞生物学研究所の伊藤啓准教授らのグループと共同で、視力が低い方（ロービジョン者、弱視者）にとって視認しやすく、しかも景観と調和しやすいような「視覚障害者誘導用ブロック」を開発いたしました。

誘導ブロックは、国土交通省のバリアフリーガイドライン等において「視認しやすい黄色で、周囲の路面と明確なコントラストを確保して敷設する」ことが推奨されていますが、非常に目立つ色であるために周辺環境と調和しにくいことから、景観性を重視する建築家やデザイナーにより、路面の色や舗装の模様と紛らわしく、視力の低い方に見にくい危険性を伴った誘導ブロックが設置されるケースが増えています。また、車椅子やベビーカーの利用者にとって、誘導ブロックの表面の突起は、乗り越える際に段差が衝撃となり、乗る人、押す人の双方に不快感を与える原因となっています。

伊藤啓准教授とカラーコンサルタント会社、当社を始めとする誘導ブロックメーカーから構成されるグループは、著名な建築家である隈研吾氏の助言を得ながら、誘導ブロックとしての視認性・記号性を確保しつつ、景観との調和も実現できるような色あいの誘導ブロックの開発を進めてきました。視力の低いロービジョンの方々のべ100名と一般視覚者のべ50名の協力による比較評価実験と1年間にわたる実証試験の結果、このほど現行の濃い黄色のブロックとほぼ同等の視認性をもち、かつ景観とも調和しやすい2色の誘導ブロックを開発いたしました。同時に、突起の高さ（JIS規格で5ミリと定められている）を保ちつつ段差乗り越え時の衝撃を和らげるために、車椅子やベビーカーの車輪が当たる突起の角（エッジ）にわずかに丸みを持たせた新しい突起形状のブロックや、ほとんどの車椅子やベビーカーが通過できるような幅の平坦部を設けたブロックも開発いたしました。

2020年開催予定の東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、バリアフリーと景観の双方が重視されているなかで、視力が低い方々と建築家やデザイナーのニーズの両方を満たすことが可能で、かつ車椅子やベビーカーの利用者等にも配慮した本製品は、誘導ブロックにおける新たなユニバーサルデザイン普及の大きな一助になると期待しています。

■（新）視覚障害者用点字誘導ブロックの概要

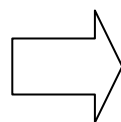
1. 製品



①色あい

【従来色】

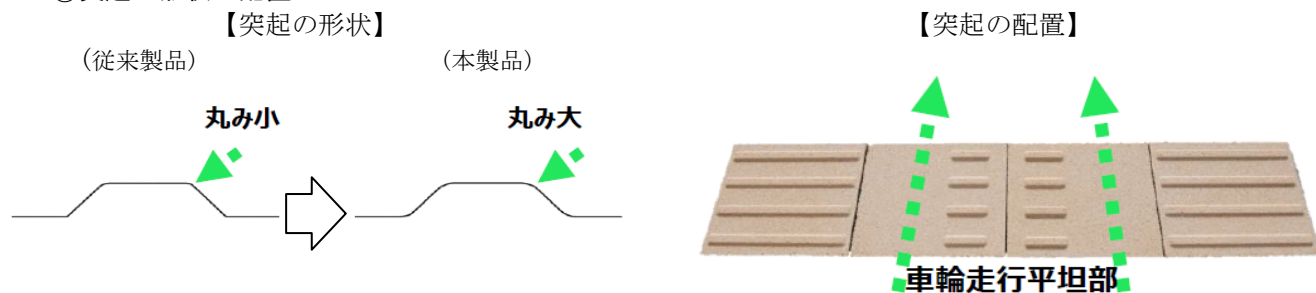
【本製品の色あい】



クールイエロー

ウォームイエロー

②突起の形状・配置



2. 特徴

- ①新しい色あい（クールイエロー、ウォームイエロー）の誘導ブロックは、景観とよく調和し、かつ従来の濃い黄色の誘導ブロックとほぼ同等の視認性を有しています。特に光が少ない夕暮れ時には、濃い黄色のブロックと同等以上の視認性が確認されています。
- ②ブロック表面の突起の角（エッジ）にわずかに丸みを持たせることで、車椅子やベビーカーが誘導ブロックの突起を乗り越える際の衝撃を和らげます。また、市販の車椅子やベビーカーの前後輪の車輪幅を調査し、ほとんどの車椅子やベビーカーが通過できるような幅の平坦部を設けたブロックもラインナップしました。

※本製品は東京大学伊藤研究室、日本興業株式会社、株式会社 LIXIL、株式会社キクテック、DIC カラーデザイン株式会社、NPO 法人カラーユニバーサルデザイン機構の共同開発によるものです。

◆ニュースリリースについてのお問い合わせ先

〒769-2101 香川県さぬき市志度 4614-13

日本興業株式会社 総務人事部

TEL：087-894-8130

◆製品についてのお問い合わせ先

〒769-2101 香川県さぬき市志度 4614-13

日本興業株式会社 土木・景観事業本部 景観資材事業部

TEL：087-894-1022

以上